



こんにちは。現在小学生2人の母です。下の子が、うのもり幼稚園で3年間お世話になりました。お子さまの幼稚園入園を控え、我が子が晴れて幼稚園生になれる姿をわくわくと思い描きつつも、一体どの幼稚園にしようか、迷われてるお母さまも多いと思います。幼稚園探しは、通園バスや給食があるかないか、とか、のびのび系かお勉強系か、とか、とかくイメージが先行しがちですが、ぜひ、その幼稚園の子どもに向けるまなざしとといいますか、保育の土台となる園の考え方、価値観のようなものをよく見つめて考えられては…と思います。

我が家は上の子は別の幼稚園に通っていたのですが、三年間通ってみて、自分や我が子たちで求めるライフスタイルも含めて色々と考え直し、下の子は、うのもり幼稚園に通わせて頂くことにしました。

他の園も経験し、うのもり幼稚園にも通ってみて、印象的だったことをいくつかご紹介させていただきます^^

◎園長先生始め先生方皆が、園児一人一人が持っている個性、意思や気持ち、その子その子のペースを大切に下さり、温かく根気強く寄り添って下さっていました。生まれてまだ数年で初めて集団生活に飛び込む幼い園児たち、でこぼこして当たり前ですよね。うのもり幼稚園の園児たちは、いい意味で（ただ甘やかしているという意味ではなく…）でこぼこのまま、のびのびと過ごせてるんじゃないかな、と思います。多少はみ出ている「皆と同じことが出来ない悪い子」というようなレッテルが貼られるようなことは、決してなかったように思います。

◎なので、子どもたち自身から発信されるものをもとても大切にしてくれていました。発表会やリレーの順番決め、日々の遊びひとつを取っても、園側が親ウケを狙ってお膳立てしたものではなく、あくまで普段の園での生活の姿だったり、拙くとも、子どもたち同士の話し合いで決められたことだったりしたことが、本当に目からウロコが落ちる思いでした。例えば劇の小道具や衣装なども、大人がイメージや作り方をすべて示唆したこぎれいなものより、子ども自身が

考え手作りしたもののほうがどんなにか価値が高いか、よく分かりました。子ども同士のけんかについても、必ず双方の話をじっくりと聞いてくれていました。

おかげさまで、私自身の子育てにおいても、目に見える結果や人と比べた結果だけで判断するのではなく、それまでにその子自身が辿った過程をよく見てその時々気持ちを大切にしていこうという指針のようなものを学ばせて頂けたと思っています。

◎このように丁寧な保育が実現されているのは、幼稚園の先生方全員が、園児全員に向き合ってくれているからこそ、だと思います。特に園長先生…！

うのもり幼稚園に入るまで、園長先生というものはスーツやおしゃれな服装で、園長室で事務仕事をされているイメージしかなかったのですが…

うのもり幼稚園の児玉先生は、全く違いました!! いつも園児全員の顔や名前や性格を覚えて下さっていて、一緒に遊んだり、何かを教えて下さったり、絵本を読んで下さったり…

園児のとても近いところにいらして下さる園長先生でした。

◎そんな園長先生を中心に「親児の会」というお父さん中心のボランティアの会があり、園庭のツリーハウスを補修してくれたり、週末に園庭で楽しいアウトドア企画を立ててくれたりしました。親子で参加し、炭火でバームクーヘンを焼いたり、うどんをこねたり流しそうめん流したり… 我が家も家族で参加させてもらい、楽しい思い出がたくさんできました。

◎最後になりますが、とにかく良い絵本が豊富です!! 2階にある図書コーナーは、空間としても、わくわくするようなつくりです♪

まだまだ挙げたらキリがありませんが… この温かい幼稚園で過ごさせてもらったことは息子にとっても私にとってもかけがえのない3年間となりました。

こちらをお読みの皆さまも、お子さま方も、どうかすてきな園生活に出会うことができますように。。。 長文にお付き合い下さり、ありがとうございました。

●うのもり幼稚園ってどんなところ♪ (卒園児の保護者より)

- ・息子を虫取り名人にしてくれるところ
年少さんの時「〇〇先生と虫探ししたよ～」と嬉しそう。

年中さんでは「今日は〇〇くんと虫何匹捕まえた～」と言っていたのが年長は、幼稚園に着くなり、職員室に虫取り箱（牛乳パックを工作して、透明フィルムから中が見える素敵な箱）を 借りに猛ダッシュ…帰りに聞いたら、「今日は〇匹捕まえたんだよ！」「〇〇くんは凄いんだよ！〇匹も捕まえてた～」どうやら虫取り競争に明け暮れていたようです。

・（こんなこと言ってしまっても良いのかな…）字、読めてます。

園では読み書きの時間は設けてないと思います。だからこんな風に書いたら、誤解を生んでしまうかもしれません。全てのお子さんに、というわけではない前提でお読みいただきたいのですが…

幼稚園にはたくさんの本があります。私たち母親世代が子どもの頃読んでいたあの本、この本があります。先生も保育の合間合間に、それはもうたくさん本を読んでくださります。うのもりっ子は絵本が大好き。そして、子どもたちは絵本の世界から字を教わります。それは本当に自然に。

みんなが「一斉に」行う教育の時間ではないので、年少のうちに 字が読める子もいれば、年長になって 字が分かる子もいるんだと思います。ただ、これはなんて読むの？からはじまり、この本自分でもっと読みたい！知りたい！という興味から文字を覚えていったのだと思います。大切な貴重な3年間、机に座って字を読み書きし覚えたものではなく、字が身体に入ったんだと思います。念のためもう一度 言うておきますが、園では字の読み書きは教えていないと思います。

・子どもを待ってくれるとこ

時間の無い私たちは、いつも子どもをせかしてばかりいます。叱るときでも「どうしてそんなことしたの」「〇〇だからでしょう」と大人の考えで 子どもの失敗を捉え 済ませがちです。でもうのもり幼稚園の先生方は違います。ゆっくりと 上手く自分の気持ちが伝えられない子どもに寄り添い、待っていてくださいます。

みんなと並んで歌えない、踊れない息子にも「やりなさい」ではなく、やりたい気持ちはあるけど 参加出来ない気持ちを見つけてくれる。やる気の糸口を見つけ いつの間にかみんなの輪の中にわが子がいる。そんな幼稚園です。

・子どもの気持ちを大切にしてくれるとこ

幼稚園の発表会と言えば、舞台に立ち、着飾った劇を想像される方も多いかもかもしれません。しかし、うのもり幼稚園は違います。劇のストーリーも登場人物、衣装、さらには歌まで自分たちで作ってしまいます。子どもたちが毎日あ

あでもない、こうでもない話し合い、お話を作り上げます。年に一度の生活発表会。子どもの成長に涙することでしょう。

・すべてが自然体

子どもの好きや興味を見つけ、良さを伸ばしてくれます。それは親では気付かなかった部分を、幼稚園が一体となって伸ばしてくれます。安心とたくさんの目を持った幼稚園です。

うのもり幼稚園はそんな素敵な幼稚園です！

●転勤族の私がうのもり幼稚園を選んだわけ (卒園児の保護者より)

その1 幼稚園の先生方の表情がイキイキとしている

入園前の息子は「みんなと同じこと」をするのが苦手でした。「あれをしなければ」「今日はこれをしなければなりません」といったレールの引かれた保育では、息子は自分らしさを発揮できないのでは と思っていました。幼稚園を見学に行った時に、のんびりやの息子と先生とのやり取りを聞かせていただき、ここなら息子は(私も)大丈夫と感じられました。のびのびとした保育を受けられるだろう園舎、園庭の雰囲気も明るく、自分の中にすんなりと落ち着くものがありました。

その2 園長先生の人柄

1年ごとの転勤が続いたため、幼稚園を選んだのは一人息子にも関わらず3年目。それまで横浜に住んでいた私たちは、幼稚園紹介の冊子を本屋で購入、熟読。園を見学、先生の話のを伺うといった入念な幼稚園選びを重ねていました。妊娠前から園舎を見るほど(必要以上に)相当数見て回った 幼稚園選びに関してうるさい(笑)私です。幼稚園の顔ともなる園長先生には威厳も大切ですが、どれだけ子どもの目線に立てるか、を重視していました。この点は、百聞は一見に如かず。園長先生にお会いすれば、すぐに納得いただけると思います。

その3 息子の気持ち

息子には「〇〇幼稚園」に行こうね、と話していたのに、その期待を裏切ること2度。さすがに3度目の幼稚園探しには本人も納得できない、混乱している様子だったので、最後は子どもの意見を尊重しようと思いました。3月末にも近い、その日。回った何軒かの幼稚園の中から行くならどこにしたい?と聞いたところ、返ってきたのは「ツリーハウスのあったようちえん」「ごほんがっぱいあったようちえん」という答えでした。今までたくさんの幼稚園に行き、遊んだ息子。母の表には出さない思い、表情は見事息子の気持ちと同じだったのね♪と喜んだ瞬間でした。

その他としては、子どもと一緒に登園するスタイル。真っ白な子どもの心のキャンパスに、ひとつひとつ季節のうつろいが刻まれる瞬間、少しずつ成長していくわが子を隣りで感じながら3年間を過ごせる贅沢は、入園前までの駆け抜けてきた自分へのご褒美となりました。

また、子どもたちが 農作物を育て、収穫し、ありがたくいただくことは、土に触れ、命をいただき生きていることを 五感に焼き付けて欲しいなあと思っていたので、これも幼稚園を選んだ理由です。

幼稚園選び…それは、子どもの「最初の社会生活の場になる」とかなり意気込んで探しました。数々の運命の歯車から、ここのもり幼稚園に私たち家族はたどり着き、本当に感謝しています。

今、入園前に3つのことを信じて良かったなあと思っています。①幼稚園を信じ任せること。②息子の成長を信じる心。そして、③うのもり幼稚園に惹かれた母の勘。ひとり一人の 今、立ち上がろう、伸びようとする瞬間を見極め、手助けしてもらい息子はこの春立派に卒園しました。3年間の充実した毎日のおかげで息子は元気です！！

●私が良かったな〜♡と思うところ

(卒園児の保護者より)

うのもり幼稚園といえば「個人送迎」。幼稚園＝バス通園を当たり前と考えていた私には、幼稚園選び時には（雨の日も風の日も、そして雪の日も！！）個人送迎の登園はとても高いハードルでした。が、見学時のイキイキとキラキラした目（に見えました。）で遊ぶ子ども達や先生方の姿が心に残り、子どもが楽しく過ごせるのなら・・・と、思い決めた入園でした。

実際に入園して通ってみると、毎日通う事で、園での子どもの様子、友達との関わりがよく見え、また、先生とも毎日話せる事で、信頼も厚いものになった気がします。

また、毎日登園という事で、親同士の関わりも自然と出来てきて、育児書にはない先輩母さん達の日からウロコのアドバイスや手助け。とても助けられ、今思うと感謝だな〜♡と。こんなところもこの幼稚園ならではの良さだな〜、と感じています。

・飾らぬスタイル・・・発表会も参観も遠足も、決して親ウケするような派手なものではないと思います。

ビデオ、カメラ撮影禁止の、親からすると不都合な事も裏を返すと、子どもの状態をいちばんに考えてくれているという事。のびのびとキラキラした目で過

ごすかわいい子ども達を見ると、そんな地味～と感じるやり方も素敵だな～、と感じます。

・アットホームな雰囲気・・・自分の受け持つクラスの子だけではなく、他のクラス、他学年の子ども達の名前や呼び名まで覚えてくれ、ともに遊んでくれる先生方。

クラス、学年関係なく交わる子ども達。

こんな、のびやかで、あたたかな雰囲気のこの園が、一時の人気に惑わされる事なく、ずうっと変わらず、続きますように・・・。

●うのもり幼稚園は・・・

(卒園児の保護者より)



- ・担任以外の先生からもわが子の様子が聞ける。
- ・絵本にたくさん触れることができ、卒園しても本好きな子が多い。
- ・先生は粘り強い。マイペースな子をせかせたりせず、根気強くつきあってくれる。
- ・園長先生はアウトドアのスペシャリスト・料理の達人・そして永久少年・泥だんご作りの名人。
- ・X'mas 前にはきれいなオーナメントではなく、ダイコンが干されている。
- ・畑や園庭で、果実や野菜を収穫し、時には園でいただく。うちの子は嫌いだっただトマトやナスがたべられるようになった。
- ・バスがないから 先生から直接お話が聞ける。他のおかあさんから自分が気づかなかったわが子の成長を教えてもらったりする。
- ・お父さんたちも“親児の会”等を通して 交流を持つことができる。人気のツリーハウスもおとうさんの手作り。
- ・うちの子3人は「たくさん遊べて楽しい幼稚園！」と言っている。
- ・入園前は「サークルが面倒くさい」と思っていたが、お友達がたくさんでき活動も楽しくて、毎年3～4サークルはしごしている。

●幼稚園選び

(卒園児の保護者より)



実は上の子の幼稚園選択時には、バス通園をあたりまえに思っていた私にとってうのもり幼稚園は選択外でした。なんとなくうのもりちゃん看板を目にする程度で生活圏の違う16号線の向こう側のこの園は場所さえも知りませんでした。

当時私は、巷で「のびのび保育」と人気のあるA幼稚園に入れる気満々プレ保育の「〇〇クラブ」にも40分近く電話をかけ続け、やっとつかみ取っ

た参加枠でした。しかし、当の息子は園の雰囲気になじまない。園見学の時には、先生も子ども達も退屈そうに砂場でなぜか幅跳びの体力テストをしている風景。広い園庭はあるけれど、それを埋め尽くすばかりの大人数の園児達・・・なにか違う・・・きっと息子は楽しめない。悩み始め、B園も見学。・・・これも違う。C園なんてもっと違う。

そんな時、夫が「16号の向こうにある幼稚園は？」と言い出しました。私が妊娠中だったこともあり、先に園見学に行った夫は、「面白そうな幼稚園だった！」と。しかしバスがない・・・。

「バスがないなんて却下でしょ。絶対に無理。」と思っていた私。

「とりあえず見てきてみなよ。」と言われて見学したこの園は他の園みたいに親が喜びそうな事はしない地味な印象でしたが、なにより楽しそうに遊ぶ子ども達や先生達。他のお母さんが「キラキラとみえて・・・」と言っていました。私も本当にそう見えました！当時は引込み思案でモジモジだった息子も興味を引かれて入っていきそうな雰囲気でした。

それでもバス通園の楽しみはどうしても捨てられず・・・

子どもの楽しく過ごせる時間を取るか(私の)手間のかからぬ楽さをとるか・・・
比べるような事ではないけれど願書提出前日まで迷っての入園でした。

入園したころ赤ちゃんだった下の子を連れての雨の日の送迎は、他の園バスをみると「う～やっぱりうらやましい・・・。」なんて思った時もありました。これを上の子と下の子と合わせて6年間も続けるなんて、気の遠くなるような日々でしたが、気がつけばあっという間の6年間。

一番面倒に思っていた個人送迎だけれども、それが楽しさを知る基だったのだな～とも思います。バス停まで送って「いってらっしゃい」の生活だったら、ここまで愛着を感じなかったろうな～と。

あっという間で楽しかった6年間。

担任以外の先生達と話せたり、子どもの様子を聞かせてもらった事もうれしい思い出のひとつです。

うのもり幼稚園の雰囲気、大好きです。先生方も子ども達を相手にハードな毎日ですが、心身共に、充実した日々を送ってくださいませ。

お世話になりました。ありがとうございました。



私には2人の子供がいます。上の女の子は、その頃生まれたばかりの息子を抱えていたのでとにかく通うのに楽なバス通園のところを選びました。入園してしばらくは娘は毎朝泣いていましたが、バス通園だと朝の時間に余裕がありません。涙にぬれる娘は毎回私の手元から先生に引き剥がされるようにしてバスへと押し込められていきました。その時のなんとも言えない複雑な心境は今でも忘れられません。

息子のときは私自身余裕もできていたこともあり、バス通園をやめ、徒歩・自転車通園にしました。晴れた日は手を繋いで歩きました。今日は何をするのかな？楽しみだね・・・とたわいない会話をしながらの登園。季節の草花を眺め、鳥たちを見つけ、その時々様々な風を感じ、私自身の小さな心の癒しにもなっていました。ちなみに息子はその時から鳥が好きになり、「すずめ」「セキレイ」「むく鳥」「ひよ鳥」などの名前を覚えました。自転車通園では、息子の音楽会が定番。幼稚園で教わった歌を大きな声で歌って聞かせてくれました。時にはヒートアップしてあまりの声の大きさに母が恥ずかしくなることも（笑）文字を覚えだした頃には私の背中に文字を書いて「さてなんていう字でしょうか？」という当てっこ遊びをよくしました。運転と背中に集中しなくてはいけないので母は結構大変でしたが、毎回親子で笑いながら過ごしたあのわずかなひと時は、息子や私にとってとても貴重なものだったと実感します。

毎日のわずかな時間でも園生活の2~3年間に換算すると膨大な時間となります。同じ我が子なのに関わらず娘にはその経験値がすっぽりと抜けてしまっていることは、私の中でのひとつの娘への懺悔になってしまいました。

うのもり幼稚園は全員がバスを使わず徒歩通園というのがひとつの特徴になっています。きっと幼稚園選びをする際そこは重要なポイントになってくることは、経験上よくわかります。雨の時や、自身が具合が悪かったり、赤ちゃんを抱えて大変な時には、家の前まで来てくれるバスはとてありがたいものです。でも、我が子の例をとってみても、子どもの経験値が、バス通園と徒歩通園では雲泥の差があることがわかっていただけだと思います。実際今うのもりに通ってきている親子の皆様を見ると、小さな下の子を抱えながら頑張っている方がたくさんいます。冬の寒い日、そして雨の日はさらに大変です。子どもにカッパを着せ、ベビーカーにはカバーをかけたり、抱っこ紐の赤ちゃんにもカッパを着せたり・・・お母さんは傘もさせないほど・・・でも、周りを見渡せば皆が同じことをしています。そこでお母さん同士のいたわりあいや、励ましあいがみられるのも、全員徒歩通園を掲げるうのもりならではのものです。

そしてそんな大変な日があるからこそ、必然的に四季を感じ、そしてお日様が出たときの暖かさやありがたさを芯から体感できるのではないのでしょうか？

大人になって、「あの人には色んな引き出しがあるね」「色んな発想がでてくるね」と言われる人に共通しているのは、絶対的な「**経験、体験の多さ**」だとある先生からお聞きしました。楽しい経験はもとより、逆に大変な経験も子どもには必要なことなのです。「今日は辛かったよ・・・」「ああ今日は楽しかったな！」と様々な思いが心に刻まれていった子どもは、いろんなことを「**豊かに感じる力**」が育ち、きっと将来は発想豊かに、そして人の痛みもわかる人間になれるはずなのです。

そして皆様のお子様にはより多くの経験値を積み重ねてあげてほしいと心から願っています。

